

下水道スタートアップチャレンジ

～求む 下水道市場開拓者！～

無料

下水道は、言うまでもなく私たちの暮らしに不可欠なインフラです。現在、汚水処理人口普及率は9割まで達しましたが、将来にわたっていかに下水道の機能を維持し、発展させていくか、今まさに智恵を絞り、努力していくことが求められています。

この度、異業種技術との連携により新たな技術開発を推進するため、下水道界と異業種企業とのマッチングイベントを開催することとなりました。下水道事業への参入や国土交通省の技術実証事業に関心をお持ちの異業種企業の方々はもちろんのこと、地方公共団体や下水道関連企業の方々など奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

日時：令和元年9月9日（月）15時～19時（受付14時30分～）

会場：株式会社三菱総合研究所 4階 大会議室BCD

東京都千代田区永田町二丁目10番3号

(https://www.mri.co.jp/company/info/office/headoffice_map.html)

主催 国土交通省水管理・国土保全局下水道部

協力 株式会社三菱総合研究所

申込方法 下記URLから、事前申込制にて承ります。

<https://www.mri.co.jp/gesui-startup/>

- ・ 申込期間 令和元年8月1日（木）～8月26日（月）
- ・ 対象者 ①下水道事業への参入に興味がある企業の方々
②下水道事業に関わる地方公共団体・企業の方々
- ・ 定員 100名（先着順。各社3名まで。応募多数の場合は人数調整をお願いする場合があります。）

※第2部では、ご関心分野ごとに交流予定ですので、分野の登録をお願いします。

プログラム予定（敬称略）

第1部 トークセッション（15:00～15:15）

- ・ 開会挨拶 国土交通省
- ・ 意見交換会開催の趣旨説明 三菱総合研究所

【下水道事業のニーズについて】（15:15～15:45）

- ・ 下水道事業の課題解決に向けた取り組みについて 国土交通省
- ・ 藤沢市における下水道事業の課題（仮） 藤沢市

【下水道事業における異業種技術活用事例と参加企業PRについて】（15:45～17:50）

- ・ ドローンを活用した処理場内監視制御（仮） 月島機械
- ・ AIによる下水道処理場運転操作の自動化・省力化（仮） 明電舎
- 休憩
- ・ 参加企業による技術等PR
- ・ まとめの挨拶 国土交通省

第2部 ネットワーキングセッション（17:50～19:00）

会場フロアを開放いたしますので、交流の場としてご活用ください

○参加対象者とメリット

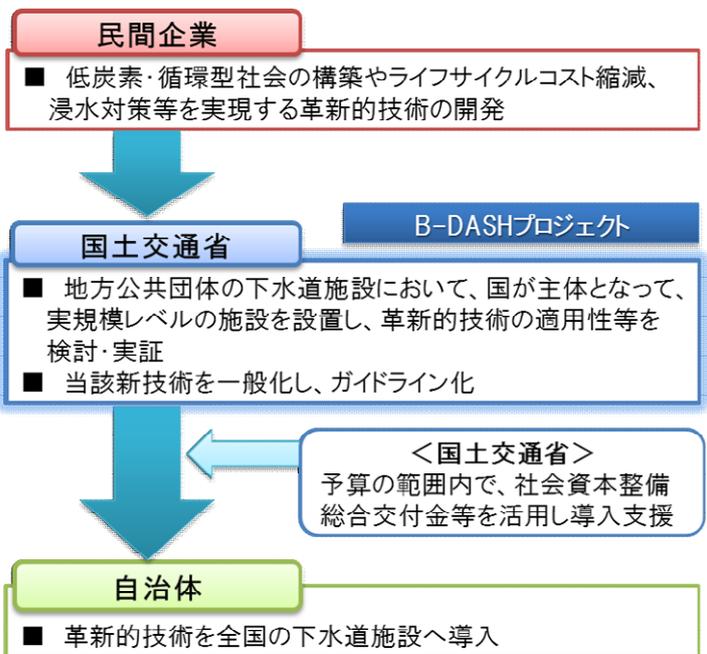
下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）による新技術の全国展開

これまで下水道と接点のなかった多分野企業の皆様

- ・下水道分野におけるビジネスチャンスに気付きを得られます。
- ・地方公共団体や下水道関連企業とのネットワークを形成できます。また、御社技術に関心のある自治体をご紹介することも可能です（要事前登録）。
- ・国土交通省が実施予定の実規模施設を用いた新技術実証事業等（右図参照）についてご案内させていただきます。

地方公共団体および下水道関連企業の皆様

- ・これまで下水道と接点のなかった様々な多分野企業の方々とネットワークを形成できます。
- ・異業種技術とのマッチングにより現在抱えている課題の解決、新たな下水道サービスの開拓につながる可能性があります。
- ・異業種技術を活用した国土交通省の取り組みについて知ることができます。

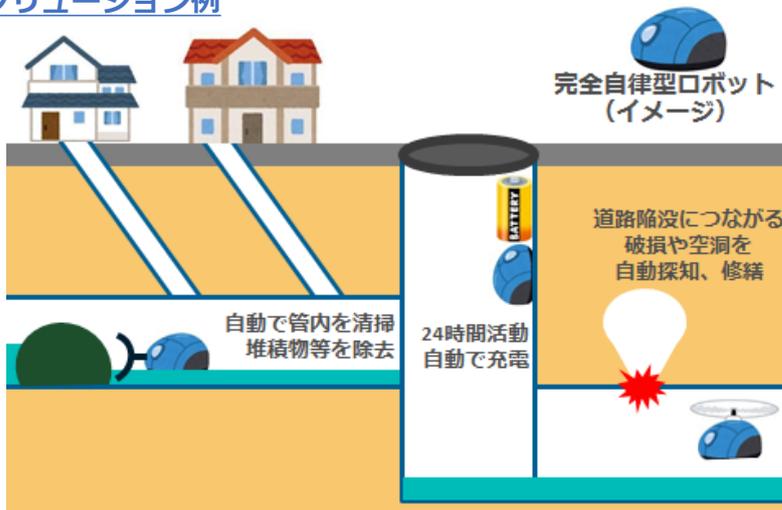


○下水道の課題・ニーズとソリューション例

現在の下水道の抱える課題・ニーズ例とソリューション例を以下に示します。ただし、これ以外の技術を排除するものではありません。様々な多分野企業からのご提案をお待ちしています。

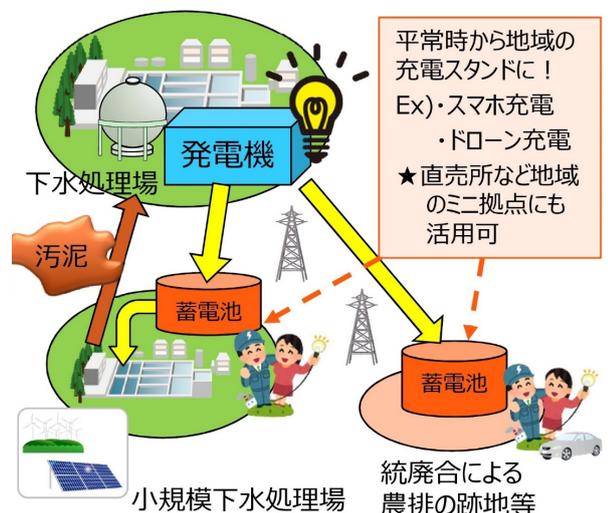
ニーズ	ソリューション
下水道管渠の維持管理を効率化したい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点検、調査、劣化診断、清掃作業の自動化 ・ 管渠破損時の自動通報システムの確立
ICTを活用し下水処理場の運転管理を最適化したい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転管理の省エネ化 ・ 水質監視（採水、測定、分析等）の完全無人化 ・ 複数処理場の統合監視制御
浸水情報を的確に把握、迅速に国民に伝達したい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数時間後の浸水を予測し、水位センサーとアプリ配信により浸水危険性を周知
災害への備えを万全にしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロボット、ドローン等により被災後の管渠、処理場の状況を迅速に把握 ・ 大地震でも壊れない下水道、迅速な汚水処理機能の復旧技術
下水道資源やストックを活用し新たな付加価値を創出したい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処理水汚泥等の資源利用（例：下水汚泥の燃料化肥料化、バイオガス発電、下水熱利用等） ・ 下水道ストックの活用（例：下水道へのおむつの受け入れ、ディスプレイ活用等）

ソリューション例



出典：国土交通政策ベンチャー施策集（H30.7）

(a)下水道管路管理の完全自動化



(b)汚泥を集約して発電・電力を各地に供給